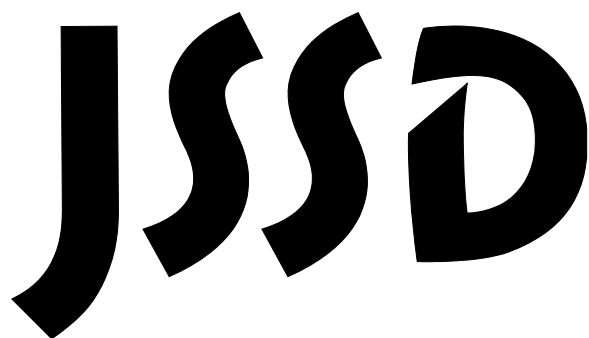




2022年 定時社員総会 資料（議案書）

第1号議案	2021年度 事業報告	1
第2号議案	2021年度 収支決算報告	11
第3号議案	2022-2023年度 役員選任	16
（報告事項）	2022年度 活動方針	17
（報告事項）	2022年度 委員会等一覧	18
（報告事項）	2022年度 日本デザイン学会組織	20
（報告事項）	2022年度 事業計画	21
（報告事項）	2022年度 予算	26

第1号議案

2021年度 事業報告

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

2021年度の投稿論文数は、英文誌「Journal of Science of Design」では43件、和文誌『デザイン学研究』では46件となった。掲載件数には、論文28件（英：10件、和：18件）、論説4件（英：2件、和：2件）、報告26件（英：10件、和：16件）となっている。ご投稿いただいた会員の皆様に御礼を申し上げる。

また今年度も多くの先生方に論文審査にご協力いただき、大変貴重なご意見やご指摘をいただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

※以下のご協力いただいた先生方記（敬称略、順不同）

AHMAD Aziz Hafiz, ALVAREZ Jaime, Bao Suomiya, CHANG Ikjoon, Chang Wei-Chi, Chuang Yu-Hsing, Cruz Guerra Guerra Christian, Fan Chen-Hao, Hung Chi-Sen, Li Shu Lu, LIN Chang-Rong, Lin Fang Suey, LO TSAI-YUN, LOH Wei Leong, Lu Chia-Chen, Syarief Achmad, Tsai Tung Jen, Wang Chao-Ming, ZHANG JUE, Zheng MengCong, 赤澤 智津子, 蘆澤 雄亮, 新井 竜, 池田 岳史, 石川 義宗, 石橋 圭太, 伊豆 裕一, 井関 大介, 板垣 順平, 伊藤 孝紀, 伊藤 俊樹, 猪股 健太郎, 今泉 博子, 植田 憲, 上田 一貴, 遠藤 律子, 大鋸 智, 岡田 明, 小川 直茂, 小野 健太, 柿山 浩一郎, 郭 龍旻, 梯 絵利奈, 片山 めぐみ, 加藤 健郎, 木谷 庸二, 木村 敦, 桐谷 佳恵, 櫛 勝彦, 工藤 芳彰, 久保 光徳, 久保田 善明, 小西 文香, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 佐賀 一郎, 境野 広志, 坂本 和子, 佐々 牧雄, 佐藤 公信, 佐藤 浩一郎, 沈 得正, 下村 義弘, 杉野 幹人, 曾我部 春香, 曾和 具之, 曾和 英子, 田中 隆充, 田中 法博, 田中 みなみ, 田中 吉史, 田端 啓希, 寺内 文雄, 永井 由佳里, 中島 永晶, 中西 美和, 中本 和宏, 永盛

祐介, 生田目 美紀, 西村 美香, 野口 尚孝, 八馬 智, 浜田 百合, 前川 正実, 三橋 俊雄, 村上 存, 柳澤 秀吉, 山内 貴博, 梁 根榮, 横井 聖宏, 劉 夢非, 渡邊 慎二

作品審査委員会

委員長 杉下 哲

「デザイン学研究 作品集 27号 (2021)」は、作品31件（内10件作品ムービー添付）の掲載を、J-Stageで電子刊行した。全投稿数は54件で、採択率は57%であった。今回採録にいたらなかった作品も含め、続くコロナ禍の社会状況のなか、多くの投稿に感謝する。以下のURLにアクセスして閲覧できる。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/27/0/_contents/-char/ja

募集・審査・編集・刊行の経緯は、6/12学会Webサイトなどでの作品募集の告知に始まり、9/10投稿受付終了（社会状況から8/31を延長）、9/15～10/8第1次審査、11/18～12/9第2次審査を経て、12/20著者への採録結果通知を行った。1月下旬に編集内容協議して正文社へ刊行作業を依頼し、2月に正文社からの校正依頼や学会事務局からの掲載料請求が著者へされ、校了を経て、3月中旬に正文社から刊行作業終了の報告を受け、3/19にJ-Stage上で刊行した。複数回に審査いただいた専門審査委員の方々、募集から審査、編集までのプロセスを担った本委員会の委員と幹事のみなさまへ感謝する。

学会誌編集・出版委員会

委員長 寺内 文雄

2021年度は、特集号29巻1号（105号）「デザインのこれから」（担当：小野健太、蘆澤雄亮）が2022年6月に発行される予定である。また特集号29巻2号（106号）は、研究部会特集号（仮題）として、8つの研究部会の紹介をする号とすることが決まっている。企画および編集担当の皆様に御礼申し上げます。委員：寺内文雄、山本早里、

井関大介、曾我部春香。

研究推進委員会

委員長 小野 健太

研究推進委員会の主な活動は、1. 研究部会の活性化、2. 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3. 秋季企画大会における企画運営などである。

2021年度は以下の活動を行った。1. オンラインで行われた2021年度秋季企画大会「Open SIG.」を企画委員会と共同で企画・運営を行った。2. オンラインで開催される2022年度春季研究発表大会においてテーマセッションの募集を行い、8つのテーマセッションを選出した。

2021年度担当理事・幹事：蘆澤雄亮、柿山浩一郎・佐々牧雄、佐久間彩記、秋山福生

企画委員会 総合企画

委員長 生田目 美紀

企画委員会総合企画の主な活動は、春季大会オーガナイズドセッションの企画運営、秋季企画大会の企画立案等である。

2021年度は以下の活動を行なった。第68回春季研究発表大会（2021年6月25日（金）～27日（日）、オンライン）は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、学会としては初めての完全オンライン形式で行なった。

オーガナイズドセッションは、大会開催校・長岡造形大学でオンライン会議室をご準備いただき、以下の3セッションを実施した。

1)「大学と地域によるレジリエンスデザイン」（オーガナイザー板垣順平：長岡造形大学）2)「人とひとならざるものに、おもいを馳せていく実践者たちの知～わからない世界とむきあえる身体づくり～」(オーガナイザー横溝賢：情報デザイン研究部会企画／札幌市立大学) 3)「政策・行政とデザイン」（オーガナイザー山崎和彦：Xデザイン研究所／武蔵野美術大学・オーガナイザー長谷川敦士：コンセント／武蔵野美術大学）

秋季企画大会(2021年11月6日(土))は、オンラインならではの利点を活かし、オープンキャンパスさながらの「Open SIG (Special Interest Group = 研究部会)」を企画した。参画頂いた研究部会は以下の8研究部会である。・環境デザイン部会(ED)・タイポグラフィ部会・子どものためのデザイン部会・農業デザイン部会・アジアデザイン研究部会・情報デザイン研究部会(Info-D)・創造性研究部会・タイムアクシスデザイン研究部会・プロモーションデザイン研究部会
秋季大会検討&運営委員会[総合企画(生田目・工藤)・研究推進委員会(小野・蘆澤・柿山)・副会長&事務局長(佐藤弘喜)]

企画委員会 支部企画

委員長 平松 早苗

2020年度の「教育成果集」は、36点(先生39名・学生78名)の作品を掲載し発行したが、前年度と同様に2021年度春季大会、秋季大会ともリモート開催となったため、全面的な配布機会が無くなった。そのため、事務局より全学生会員への郵送の形で配布を実施した。



2020年度「教育成果集」より

2021年度「教育成果集」も企画委員会支部企画として実施し、全国から40作品の参加があり、第2支部にて編集作業中(5月上旬現在)である。2022年度も春季大会がリモート開催となったため、事務局より全学生会員への郵送の形で配布を予定している。

概要集編集委員会

委員長 柿山 浩一郎

春季研究発表大会概要集編集委員会の活動は、【1】春季大会の梗概原稿・J-Stage登録情報の収集、J-Stageへの業績登録、および、【2】大会幹事校の大会運営支援である。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けた2度目の大会であったが、幹事校をご担当頂いた長岡造形大学と連携を行いながら、完全リモートでの大会運営となった。

デザイン学会としては初めてのオンライン開催ということもあり通信障害などの観点から発表成立要件の精査を行なった。結果、事前の梗概原稿の投稿に加え、プレゼンテーション動画(口頭発表:15分、ポスター発表:3?5分)の投稿を発表者にお願ひし、大会当日には口頭発表はzoomによる発表と質疑応答、ポスター発表はチャットによる質疑応答にて研究発表を行う方式として運営した。成立発表数211件(口頭発表148件、ポスター発表63件)、参加登録数866名であった。

2021年度担当理事・幹事:永盛祐介、小宮加容子

教育・資格委員会

委員長 松岡 由幸

2021年度は、学会活動方針である「研究・教育基盤の向上」を目的とした「教育」の活動に向けて、以下の施策をzoomにて実施した。

まず、11月10日、17日、24日の全3回にわたり、「デザイン科学基礎講座～人はなぜ、創造できるのか?」を行った。講師は、松岡由幸(慶應義塾大学/早稲田大学)、宮下朋之(早稲田大学)、加藤健郎(慶應義塾大学)、佐藤浩一郎(千葉大学)、井関大介(東京造形大学)の5名による。内容は、デザイン科学の基盤をなすAGE思考モデル、デザイン二元論、多空間デザインモデルの3つの理論を、創造の”体幹”と位置づけ、解説した。参加者は、パナソニック株式会社、トヨタ自動車(株)、(株)本田技術研究所、シチ

ズン時計株式会社などの企業から9名、早稲田大学、大阪大学、東京大学、京都工芸繊維大学、産業技術総合研究所などの教育・研究機関から10名、合計19名であった。

次に、2月19日と21日に、「デザイン科学基礎講座(特別企画)『タイムアクシスデザインの新时代』」を行った。参加者は、日産自動車株式会社、(株)本田技術研究所、(株)豊田中央研究所、日揮グローバル株式会社、シチズン時計株式会社、ミズノ株式会社、株式会社小野測器、ユー・エス・ジェーなどの企業から10名、大阪大学、北陸先端大学、京都工芸繊維大学、岐阜大学、東京理科大学、福井工業大学、防衛装備庁、産業技術総合研究所などの教育・研究機関から17名、合計27名であった。

いずれも、時間終了後も30分以上、様々な質疑が積極的に行われるなど、盛況であったことから、次年度も実施する方向で考えている。

広報委員会

委員長 大島 直樹

広報委員会の主な活動内容である学会Webサイトの更新状態を報告する。2021年度(2021年4月から2022年3月まで)は学会Webサイトにて100件のニュースやイベント記事が投稿された。内訳は、本部事務局40件(40%)、研究部会29件(29%)、支部9件(9%)、作品審査・作品集編集委員会4件(4%)、会報2件(2%)、春季・秋季大会関係10件(10%)、会員の著書6件(6%)であった。

2020年度における投稿総数は71件だったため、2021年度は2020年度と比べると29件ほど投稿数が増加した。なかでも研究部会の投稿は、2020年度の11件から2021年度は29件と大きく増加した。これら投稿数増加の要因としては、新型コロナウイルスの影響が緩和して、研究部会等の活動が戻ってきていることが影響していると考えられる。

また「会員の著書」の投稿は、2020年度の1件から2021年度は6件と増加した。これは、2021年12月に学会Web

サイトのトップページにバナーを掲示したことが掲載申込に影響したと考えられる。

今後の社会的な情勢の回復とともに会員による学会活動の活性化を支援となるべく、学会 Web サイトの更新等を後任者に引き継ぎたい。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

2021 年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会・会議などが全てオンラインになった。その結果、収入は昨年度比でおよそ約 470 万円増加した。内訳をまとめると、一般会計の収入はおよそ約 4600 万円であり、繰越金を除いた収入に対する会費収入は約 79.5%である。また支出においては、繰越金を除いた実質支出割合は、本部事務局経費約 35%、学会誌編集出版関連経費が約 38%であった。

さまざまな学会企画がオンラインで実施できるようになったため、学会参加や研究発表が手軽に行えるようになった。このことを活用し、他の委員会と協力し、学会活動の更なる活性化を行い、会員増加につなげる仕組みを検討した。

市販図書企画・編集委員会

委員長 國本 桂史

本委員会は、統合知として捉えてきたデザインの本質を、新しい概念の「包括知」として「デザイン」を支える学会の図書企画・編集への取組みを進めてきた。主な活動として、デザイン学に寄与するデザイン研究に関する市販図書の出版のために、新しい分野とのデザインの企画を検討するとともに、それらを反映してセミナーやワークショップの企画を検討してきたが世界的なコロナ禍の影響で開催中止になった。この経緯を踏まえ「デザイン」ということを新しい視点で見直して企画に取り組んで、学会の皆様や異分野の研究者の方々に、若干なりにも発信できたと考える。学会員の皆様には、学会の

市販図書へのますますのご協力をお願いしたい。

2021 年度

春季研究発表大会実行委員会

実行委員長 境野 広志

第 68 回日本デザイン学会春季研究発表大会は長岡造形大学を開催校として、2021 年 6 月 25 日～27 日（日）の 3 日間で行われた。コロナ感染状況を注視しつつ現地開催を平行して検討してきたが状況改善が見られず、2 月にリモート開催と決定した。リモートのメリットを活かすため、発表用の事前動画閲覧やパネルセッションの終日発表などを実施、また参加費を無料にするなど、今後に向けての試行的な運営を実施した。

今大会では口頭発表セッション 18、テーマセッション 9、ポスターセッション 3、オーガナイズドセッション 3、特別講演 2 件、キーノート公演 2 件、学生ワークショップ及びリモート懇親会が行われた。参加登録数も 800 名を超え、特に学生参加が多くみられたようである。

初めての試みも多く、また実行委員会の経験不足もあり、当初スケジュールからの遅延や入金トラブルなどもあったが、学会本部事務局や梗概編集委員会、そして参加して頂いた皆様のご協力により成功裏に終えることができたと思われる。

2021 年度

秋季企画大会実行委員会

実行委員長 生田目 美紀

2021 年度の日本デザイン学会秋季大会は、11 月 6 日（土）13:00～17:10、オンライン（Zoom）ならではの利点を活かし、オープンキャンパスさながらの「Open SIG（Special Interest Group＝研究部会）」を開催し、多くの方々と「研究の秋」を楽しむことができた。

「Open SIG.」は 2 部構成で開催され、以下の 9 つの研究部会が参画した。

第一部（環境デザイン部会（ED）・タイポグラフィ部会・子どものためのデザイン部会・農業デザイン部会・アジアデザイン研究部会）、第 2 部（情報デザイン研究部会（Info-D）・創造性研究部会・タイムアクシスデザイン研究部会・プロモーションデザイン研究部会）

各研究部会には 1 つのブレイクアウトルームが割り当てられ、自由な企画で研究部会活動を行っていただいた。参加者にはブレイクアウトルームを自由に行き来し、研究部会の活動内容や雰囲気を感じていただいた。

秋季大会検討&運営委員会：企画委員会総合企画（生田目・工藤）・研究推進委員会（小野・蘆澤・柿山）・副会長&事務局長（佐藤弘喜）

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

本シンポジウムは、日本デザイン学会、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会の 6 学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年で開催している。

2021 年度は、精密工学会が幹事学会となり、2021 年 7 月 15 日～16 日に zoom にて実施した。セッションは、Design 理論、Design 方法論、Design 方法、Design 実践、Design 知識で構成されており、学会間横断型の知の統合が進められている。参加者 166 名、講演数 60 件であった。

デザイン関連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

2016 年の当学会秋季大会において、芸術工学会、意匠学会、基礎デザイン学会、道具学会の各会長が集い、デザイン哲学に関する議論を実施した。本シンポジウムは、それを機に、毎年、この日本におけるデザインに関する 5 学会が集い、哲学などさまざまな横断的な議論を行う場である。

2021年度は、基礎デザイン学会が幹事学会となり、11月14日にzoomにて実施した。テーマは、「デザインの始源」であり、当学会からは、「自我のすゝめ〜ブルシット・ジョブ化が進むデザイン」（松岡）が講演された。現在、基礎デザイン学会が、本シンポジウムの概要を紹介するパンフレットを作成中である。

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

前担当理事 小林 昭世

日本デザイン学会を含む16学会からなる芸術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2021年度は、第16回公開シンポジウム「疫病と芸術」を準備した。このシンポジウムは、2021年6月11日(土)13:00-17:00に対面とZoomにより、思想・歴史・実践の軸から、疫病が変える社会、芸術は免疫たりえるか等、疫病と芸術を考えるという趣旨で開催された。

日本工学会

担当理事 小野 健太

日本工学会は、約100学協会により構成される工学系学術団体である。主に事務研究委員会を通じて、会員学協会との話題提供や学協会運営などに関する最近の情報交換を行っている。

2021年3月4日(金)に開催された「第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」に日本工学会所属学会として協賛させて頂いた。

また2021年3月28日(月)にオンラインで開催された「持続可能なデジタルとMICE」について、会員の方に告知させて頂いた。

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事 小林 昭世

2021年度の日刊工業新聞主催、機械

工業デザイン賞(IDEA)は、3月より募集を開始し、審査(青木弘行専門審査委員会代表)を行なった。最優秀賞(経済産業大臣賞)には、超高速3軸リニアドライブ・ファイバーレーザマシン「REGIUS-3015AJ」(アマダ)および遺伝子解析装置 Auto Amp(島津製作所)が選ばれた。日本デザイン学会賞には、CNC 真円度・円筒形状測定機 ROUNDTRACER EXTREME(ミツトヨ)が選ばれた。

第1支部

支部長 横溝 賢

日本デザイン学会第1支部では、これまで地域に開かれた学会活動をコンセプトに、仙台、札幌、函館、秋田、山形、八戸に出向き、地元市民や学生、社会人、教員らがフラットにデザイン学の知見を交流する場を作ってきた。本年度は、岩手・盛岡を舞台に第12回JSSD第1支部大会をオンラインにて開催した。以下に開催概要を示す。

●開催日時:2021年10月3日(日)10:00~16:15

●大会参加者:85人

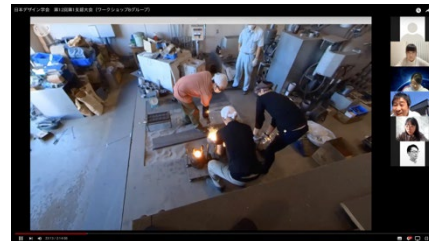
●プログラム(括弧内は参加者数、発表件数):オンラインフィールドワークショップ(20人)／もぐもぐタイム／ライトニングトーク(10件)(以下、LT)

今大会は、田中隆充先生(支部幹事／岩手大学)を中心としたチーム(文末に詳細記載)で企画運営され、大会テーマは「素朴な継承」であった。岩手県は、水や漆、鉄をはじめとした自然素材に恵まれた土地である。これら資源を活用する職人の知恵と技術が工芸文化として発展してきた。人々の日々の暮らしの中に自然・土地・伝統文化が息づいており、現在も「素朴な継承」が続いている。

本大会のメインプログラムは、伝統工芸・南部鉄器の高度な鍛造技術を現代に継承する若手職人の工房を現地調査し、現場に根付く知恵と技を遠隔で学ぶワークショップ(以下、WS)であった。このWSの挑戦は、実際に現場に立つことなくオンライン上でフィールドワークを実施することであった。岩

手チームでは、WS実現のために事前に工房を訪ね、現場を360度カメラで撮影したYoutube動画を用意してWSに臨んだ。

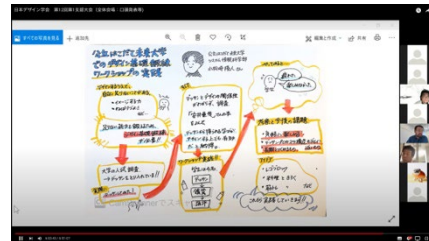
20名の参加者らは、4グループにわかれ、事前に用意された360度Youtube動画を操作しながら職人の所作や使用道具、作業環境を観察し、それぞれの発見をもとに大会テーマである「素朴な継承とはなにか?」について議論した。



360度 Youtube 動画を用いたフィールドワーク

COVID-19によって現場に出向くことができない制約はあったものの、360度Youtube動画によって、参加者はむしろ主体的に工房を探索し、互いの発見を楽しみ、学び合うデザイン交流がおこなわれていた。

また例年同様に、今大会でもWSやLTのグラフィックレコーディングをおこなった。レコーダを担当した秋田公立美術大学、東北芸術工科大学、札幌市立大学の学生らは、WSではグループの一員として議論に参加し、LTではレコーディングを通じた発見を語る役割で参加した。レコーダがWSやLTの振り返りをリードする役割として参加することにより、学生主体による議論の場が生まれ、互いの研究を生き生きと楽しむ学术交流が生まれていた。



ライトニングトークのグラレコによる振り返りの議論

COVID-19感染拡大は2022年度も続くことが予測されるが、今年度の経験を活かして2022年度・第13回目の第1支部大会を企画開催していきたい。次年度の開催地は、仙台(幹事校:東北工業大学)である。

●2021 年度第 1 支部大会実行委員長：田中隆充（第 1 支部幹事、岩手大学）
●大会運営委員：山田香織（岩手大学）、姜澎（岩手大学）、小岩真佳（岩手県立産業技術短期大学校）、長嶋宏之（岩手県工業技術センター）、高橋正明（岩手県工業技術センター）、永山雅大（岩手県工業技術センター）、斎藤公美（盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校）（順不同）

第 2 支部

支部長 平松 早苗

企画委員会支部企画である 2020 年度「教育成果集 2020」の編集を第 2 支部で行った。掲載作品は、36 作品（先生 39 名・学生 78 名）である。

また、東京オリパラ 2020 のレガシーともいえる「おもてなし～コミュニケーションデザイン」の実践の場を見学する企画は、コロナの終息がならず実施できなかった。

企画委員会支部企画の 2021 年度「教育成果集 2021」は、第 2 支部で編集作業中（5 月上旬現在）であり、6 月下旬に発行予定である。

第 3 支部

支部長 滝本 成人

第 3 支部では今年度も会員交流と研究活動・デザイン活動の活性化を目的として、下記の事業を実施した。

第 3 支部研究発表会

目的：研究発表を通し会員と学生の交流を深める。

発表内容：デザインに関係したあらゆるテーマを発表対象とした。発表者自身が行ってきたデザイン学研究、今後のデザイン学研究の方向性・発展性などについて、自由な発想で発表していただいた。

開催日時：令和 4 年 2 月 19 日（土）9 時 00 分～16 時 00 分

内容：口頭発表・表彰、会場：リモート開催/Zoom

参加者：43 名（会員 14 名、学生：29 名）、

口頭発表：22 件（A-04 は発表未成立の

ため概要集を無効とした）

概要：17 回目となる本研究発表会は、リモート開催の関係で、口頭発表を学生発表のみで行った。発表に先立ち 2 月 11 日（土）にリハーサルを行い、発表者全員の参加を義務付けた。発表当日は、Zoom 内のブレイクアウトルームをメイン会場とし、口頭発表は 2 会場を準備した。

また、今年度は名誉会員授与記念講演会として、佐々木尚孝先生の「図学から AI4 まで」～デザインのコピュータ利用の経緯とこれから～をテーマとした講演を行った。口頭発表演題の各概要は、ISSN を取得した第 3 支部研究発表会概要集に収録され（ISSN2188-479X）、国立国会図書館に収録する。次に平成 25 年度より「優秀発表賞」を設け、今年度は以下の 4 名を表彰した（敬称略）。

受賞学生：山本美穂（名古屋市立大学）：ポスト・スマート時代の製品デザインとその有効性の検証、織田麻沙（名古屋市立大学）フレイルにある高齢者の自立生活に関する研究、都筑亮志（金沢美術工芸大学）音楽のユーザーインタフェイス、甲斐翔（名古屋市立大学）テオヤンセンリンク機構から着想を得た手動田植機の構造研究

2. 第 3 支部報告集

支部会員の日頃の研究活動・デザイン活動の発表の場として、平成 30 年度より「第 3 支部報告集」を出版している。投稿者は福井工業大学の竹田周平氏 1 名 2 件であった。報告集は第 3 支部研究発表会概要集と合本で出版した。

3. 日本デザイン学会奨励賞第 3 支部学生表彰制度について、平成 25 年度より「奨励賞」を設け、各所属機関（大学、大学院、短期大学）において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象に表彰を行う。

目的：表彰制度による学生の研究・制作活動に対する評価

対象：日本デザイン学会第 3 支部会員（教員）在籍の大学院・大学・短期大学において、特に優秀な研究・制作を行った学生と大学院生を対象とする。

人数：各所属機関の学部卒：2 名、大学院前期課程（修士）卒：2 名、後期課程（博士）卒：2 名、（プロジェクトの

申請は 1 件とした）

選考方法：各所属機関に所属するデザイン学会会員による選考

表彰：第 3 支部から賞状データをメールで送付し、各機関にて印刷し卒業式で表彰する。

表彰学生：名古屋工業大学の児玉咲世・正村優衣、名古屋市立大学の松田理沙・井倉芳弥、名古屋市立大学大学院の山本美穂、愛知淑徳大学の橋本侑芽、金城学院大学の伊藤瑠美、椋山女学園大学の三田奈由・河辺春佳、名古屋学芸大学の村上遥香・大澤学人、名古屋学芸大学大学院の安斎萌実・小川ひかる、福井工業大学の中山比奈子・桐山玲奈、福井工業大学大学院の花本響・Pornpan Sutas、（敬称略）

第 4 支部

支部長 益岡了

第 4 支部では、コロナ禍により休止状態になっていた学生間交流の活性化を目指す『学生交流会』と。定例となる『研究発表会』を実施した。それぞれ以下に報告する。

『令和 3 年度学生交流会』

2021 年 12 月 27 日（月）13：30～

大阪工業大学とオンラインによるハイブリッド形式にて実施した。

成安造形大学、神戸芸術工科大学、京都精華大学、大阪工業大学などから約 10 名の学生が参加。それぞれの課題作品について発表し、学生、教員を交えて活気ある意見交換を行うことができた。参加学生からは「他大学の課題やプレゼンテーションの手法などを知ることができて刺激を受けた」などの感想が得られ、次年度の発表に向けて意欲を見せる姿もあった。

『第 4 支部研究発表会』

2022 年 2 月 23 日（水）13：30～

オンライン形式（Zoom）にて実施した。

9 件の口頭発表があり、大学や民間企業などから多彩な研究成果が発表され、和気藹々とした雰囲気の中、活発なやりとりが交わされた。

今年度も新型コロナウイルス感染状況を見ながらの実施となったため、告知が十分でなかったり、運営面でも直前まで慌ただしかったりとご不便をおか

けた面もあったが、参加者の皆様のおかげで非常に充実した交流会、発表会となった。参加いただいた皆様、運営に協力して下さった皆様に厚く御礼申し上げる。

第5支部

支部長 田村 良一

第5支部では、2021（令和3）年10月30日（土）、2021年度第5支部発表会を、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、昨年度に引き続き、Zoomを用いたオンラインで開催した。

本発表会では、研究発表とライトニングトークの2カテゴリを設けており、前者は28件、後者は高校生3件を含む18件の合計46件の発表があった。また参加者は、第5支部の会員や学生に加えて、遠くは海外の台湾、国内では京都、兵庫、岡山、鳥取といった他支部の地域からの参加もあり、計74名に上った。

今年度の発表会は、幹事大学を設置せず、支部長・副支部長および幹事で実行委員会を編成して、企画・準備・運営にあたることにした。また、発表の動機づけ、デザインの啓蒙を意図して、発表会において以下三点の新たな試みを行った。一つ目は、研究発表およびライトニングトークの発表者に対する発表証明書の発行である。二つ目は、ライトニングトークにおいて、参加（視聴）者の投票結果をもとに実行委員会で選考するベストトーク賞の授賞である。三つ目は、同じくライトニングトークにおいて、高校生の発表枠の新設である。何れにおいても概ね好評であったことから、来年度以降の発表会でも継続して実施できるように検討していきたいと考えている。

今年度の発表会は、コロナ禍での2年目/2回目のオンラインでの開催であったが、これを好機と捉えて、新たな取り組みを実施することができ、第5支部発表会の新しいあり方を構築する一歩となったと考える。来年度も、第5支部の会員・学生のみならず、多くの皆さまの参加および発表を歓迎する。

ベストトーク賞（敬称略）

村田ショーン拓也：ひらがなの独創性と造形に関する研究

酒井美玲：大分市上野ヶ丘地区における認知症の理解を目的としたリーフレット制作

木山祥花：デザイン初学者が臨む「運ぶ」から着想したデザイン

ベストトーク賞 高校生の部（敬称略）

久保穂果：福祉におけるソーシャルインクルージョンのデザイン

2021年度 第5支部発表会

<https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th2021/>



第5支部 Zoom 開会式の様子

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

2021年度末の会員数は、正会員1,424名、学生会員数243名、名誉会員74名、賛助会員数26件、年間購読会員42件となっている。正会員と学生会員を合わせた会員数は1,667名で、昨年の同時期（1,888名）と比較して221名の減となった。昨年は一昨年に對して211名増であったことから、一時的な増加分が減少したと考えられる。

昨年度は、2020年に発生した新型コロナウイルス感染の問題が収まらず、学会事務局の対応や理事会活動なども特殊な状況が続いた。問題が長期化したことから、春季大会や秋季大会が対面で行われる際を除き、理事会や運営委員会はオンライン開催を標準とすることとした。また役員選挙も、今回はじめてオンラインで実施した。特に大きな問題も見られなかったため、効率化の面から、新型コロナウイルスの収束後もこれらの措置を継続する予定である。

また、かねてより準備を進めてきた会員管理システムを2021年度に導入し本格運用を開始した。部分的な改良を行いながら、本システムの会員への周知、定着を図っていききたいと考えて

いる。今後も柔軟な対応で会員サービスの維持向上に努めていきたい。

教育部会

主査 金子 武志

2021年度の教育部会では前年度に企画したデザイン教育研究会（下記参照）を含め全ての活動について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から状況判断しながら実施日程等を検討するも、感染状況が好転せず結果的に実施に至らなかった。

＜活動概要＞デザイン教育研究会の企画

日時：未定

会場：日本デザイン福祉専門学校
学生ホール（東京都渋谷区千駄ヶ谷5-7-3, 1階）

発表者：中川 英之（gallery 坂 オーナー）

テーマ：『蒐集についての一考察 ～モノとの縁、ヒトとの縁～』

発表概要：なぜ、人は蒐集するのか。蒐集癖などとも揶揄され、蒐集に興味がない人には、まるで理解できない不可思議な行為。蒐集する対象物は、それこそ多種無限に及ぶ。モノがもつ魅力、その魅力の捉え方も人それぞれだが、モノを蒐めるということは、謂わば、それ自体が一つのデザインであり、一つの創作だとも思う。様々な素材を扱う表現者、手仕事の人々と出会う生業を私はしているが、モノを蒐めることは、そのモノを生み出したヒトに興味をもつことでもある。なぜその素材を扱うことになったのか、その作風に至る道程はどのようなものなのか、いま挑みたい表現は何か、敢えて異素材への探求心はないか、など興味は尽きない。そのモノが古物の場合には、そのモノの歴史や民俗など、その背景へ興味に至る。どんな時代に、何処で、どのような者がこさえたのか、どのように伝世してきたのか、否、できれば伝世などせず、蔵から出てきて真っ先に目垢のつかないそれを手にしたい、そんな風に、そのモノを巡る夢想妄想は果てなく繰り広げられる。そんなモノたちが帯同してくれる世界は、人生に深みを与え、より豊かにしてくれる。

そんなモノ蒐めについて思い巡らす様々や、そこから派生する取り留めもない話に、今回は少々お付き合い頂きたい。（研究会案内より抜粋）

発表者紹介：中川 英之（gallery 坂オーナー）

日本大学文学研究科史学専攻修士課程修了 日本中世史を鈴木國弘氏に、日本民俗学を平野榮次氏に師事、村落や島嶼への民俗調査や、武蔵村山市史編纂専門調査員としての現地踏査研究から、郷土資料や古道、民間信仰遺物の価値・多様性への探究を深める。明光義塾狭山ヶ丘教室長を6年間務めた後、2005年東京神楽坂に gallery 坂開廊。工芸、平面、造形など多岐に亘る作家展を開催する展示スペースと、30人余の魅力溢れる作家作品を展観する常設スペースを併設し、素材・ジャンルを問わず様々な輝きを放つ作家たちと、その挑戦する表現や手仕事の形姿を紹介し続けている。

07～19 年神楽坂まち飛びフェスタ参画、09～12 年カグラザカヨコロジー参画、

11 年木旋美術倶楽部第 1 回展示会講評、18 年十人十色神楽坂ガラス散歩参画、

18 年日本デザイン福祉専門学校クラフトデザイン学科特別セミナー講師

環境デザイン部会

主査 山内 貴博

2021 年度は「サステナブル環境デザイン」をメインテーマとした。主な活動として秋季大会の部会企画への参加が挙げられる。タイトルは「環境デザイン（小）会議～マッピングを通して見えてきた環境デザイン部会の世界～」となり、部会メンバーの研究内容をキーワードマッピングで可視化する試みを行った。部会機関誌「ED プレイス」は、6 月に 91 号「2020 年度卒業制作」を、1 月に 92 号「コロナ 2020-21～環境デザインの視座から記録する～＜新しい生活様式＞その後」を、3 月に 93 号「秋季大会報告」を各主題にして、部会員からの投稿をまとめ、この 3 冊を PDF 配信により発行した。

タイポグラフィ部会

主査 伊原 久裕

新体制となったタイポグラフィ部会の活動方針として、若手の幹事を中心に、部会で扱う共通の研究テーマ企画を立てて研究会などを実施することとした。2021 年度は幹事会を 4 回開催し、「書体を選ぶ」をテーマに設定した。部会員を対象として書体の選定に関する設問についてのアンケートを依頼、アンケート結果をもとに、秋季大会においてセッションを設け、ディスカッションを開催した。「書体を選ぶ」ことに関わる諸問題について活発な意見を交わした。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

●春季大会

テーマセッション「家具・木工部会：伝統的資源と現在学」及び「家具・木工」枠で 3 本の研究発表があった。また同枠内で、2020 年度から順延された名誉会員の石村眞一氏によるキーノート講演「木製家具デザインにおける今後の課題」を実施して、活発な意見交換がなされた。

●総会

例年、家具・木工部会の総会は春季大会時に開催してきた。新型コロナウイルス感染症拡大により、2020 年度春季大会が中止となり、2021 年度春季大会もオンライン開催となったため、

2020 年度から部会総会を順延してきた。そして 2022 年度春季大会のオンライン開催が決定したので、2021 年度末（2022 年 2-3 月）、部会内メーリングリストによる持ち回り審議形式で、2021 年度及び 22 年度の部会総会を実施した。審議・決定事項は以下の通り。

1. 2022 年度人事（主査：新井竜治、幹事：滝本成人・石川義宗）
2. 2022 年度秋季大会において家具・木工部会主催の討論会「木工の世界を概観する」を企画する。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

コロナ感染の状況が好転せず、従来から行っている本会独自の研究発表形式の研究会は残念ながら本年度も中止せざるを得なかった。

デザイン科学研究部会

主査 松岡 由幸

2021 年度においては、教育・資格委員会との共催で、デザイン科学の研究と教育を推進するためにデザイン科学の基礎的なタームをテーマとした講習会を実施した。具体的には、11 月 10 日、17 日、24 日の全 3 回にわたり、「デザイン科学基礎講座 ～人はなぜ、創造できるのか？」を実施し、デザイン科学の基盤をなす AGE 思考モデル、デザイン二元論、および多空間デザインモデルの 3 つの理論を解説した。企業、教育・研究機関から約 30 名に参加いただき、様々な質疑が積極的に行われるなど盛況であったことから、次年度も実施予定である。

また、6 月に長岡造形大学で開催された春季大会ではタイムアクシスデザイン研究部会との合同のテーマセッションにて、キーノート講演 1 件、口頭発表 3 件が実施され、活発な議論が行われた。

ファッションデザイン部会

主査 神野 由紀

2021 年度ファッションデザイン部会の研究例会は、前年度に引き続きオンライン開催で実施した。テーマ：日本における百貨店販売教育の変遷からみる現代のアパレル販売員教育の問題点について

発表者：小西 広実（専門学校武蔵野ファッションカレッジ）

発表方法：Zoom によるオンライン開催
要 旨：アパレル販売員を取り巻く環境は厳しいものになっている。この解決には、販売員の環境改善と教育の変化が必要である。そこで本研究は、

アパレル業界の人材不足の解消とアパレル販売員の社会的地位向上を目指し、江戸時代末期から令和時代を対象として、各時代の販売教育の歴史的変遷と現在の販売員教育から、アパレル販売員教育の問題点を明らかにすることを目的としている。さらに、今後のアパレル販売員教育について提案する。調査結果から、各時代に合わせて様々な販売員が登場したが、その教育は場当たり的であったことがわかった。また現在、販売員教育を行っている大学や専門学校は、学ぶ内容が限定的であり学生は不安を抱えていた。さらに、販売員経験者のインタビューから、低賃金、昇進の不満、慢性的な人材不足ということが挙げられ現場が抱える問題が明らかとなった。以上のことから今後のアパレル販売員教育は、内容の充実と業界全体で連携した販売員教育が重要であり、企業は職場環境や待遇の見直しが必要であると結論づけた。参加者全員による活発な質疑応答の後、研究例会を終えた。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

2021年度は第68回春季大会（長岡造形大学）において、9年連続となるテーマセッション「子どものためのデザイン」を開催、11件の口頭発表があった。オンラインにおいても活発な質疑が交わされ、多くの方々とは新たな知見を共有できたことに感謝申し上げる。秋季企画大会では、当部会企画として「子どもの学びとデザイン」をテーマに、9名の登壇者によるライトニングトークを実施した。限られた時間の中で熱気あふれる意見交換が行われ、充実した時間となった。複数の入会希望者もあり、2021年度の目標であった「コロナ禍にあっても（だからこそ）出来る活動を模索する」を概ね実現することができたと考えている。

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

本年度の主な活動は、1) 全国大会に

てテーマセッション「エクスペリエンスデザイン」を企画して合計13件の口頭発表を予定している。2) 関連団体（人間中心設計機構、Xデザインフォーラム等）とのイベントの開催、3) プロダクトデザイン研究に関連する情報発信（日本デザイン学会 Web サイト、プロダクトデザイン研究部会 Facebook 等）などの活動であった。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 柳澤 秀吉

2021年度においては、6月に開催された春季大会でのテーマセッション、11月に開催された秋季企画大会での「OPEN SIG 2021」企画、およびタイムアクシスデザインの基礎的なタームをテーマとした講習会を実施した。

6月に長岡造形大学で開催された春季大会にて、テーマセッション「タイムアクシスデザイン」を実施し、キーノート講演1件、口頭発表3件が行われた。キーノート講演では「価値と共感のタイムアクシスデザイン」という題目で下村芳樹教授（東京都立大学）にご講演いただいた。また、セッション中は多くの質疑がなされ活発な議論を行うことができた。

次に、11月に開催された秋季企画大会での「OPEN SIG 2021」では、「あなたの考えるタイムアクシスデザイン」というテーマで講演とディスカッションを実施した。10名以上の研究者・学生に参加いただき、タイムアクシスデザインの原理や原則に関する活発な議論がなされた。

また、2月19日と21日に、「デザイン科学基礎講座（特別企画）『タイムアクシスデザインの新時代』」を行った。本講座では、具体的な事例を交えながらタイムアクシスデザインの理論や方法論の解説がなされた。企業、研究・教育機関から約30名の方々にご参加いただき、様々な質疑が積極的に行われるなど、盛況であったことから、次年度も実施する予定である。

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査 國本 桂史

バイオ・メディカルデザイン研究部会は、医療・ヘルスケア分野のデザインはそれが医療機器デザインや、人工関節などの人体再建の構造デザインであるとを問わず、医学ヘルスケア分野とそれが医学とデザインとの境界領域にあるために、両者の緊密な連繋が必要なのは勿論であるが、デザイン側においても、医学と工学の協力を得なければ十分な成果を挙げることはできない。また生体工学的概念を具体的に進展させるためにデザインの手法を必要とする考えで2008年6月に設立された。

2021年度においては、5月には医療ロボット・ダイバーシティ学会でバイオメディカル・デザインの概念のスピーチを行なった。東京パラリンピックに向けて、パラスポーツの機器、車椅子の開発について現状の報告を行ない、2022年に動態展示を行なう計画に着手した。カンファレンス「コロナと産業」を新企画での継続を計画した。昨年度コロナ感染拡大防止のため中止になった金出 武雄（カーネギーメロン大学ワイタカー全学教授）の講演会のTV講演会での開催調整を行ない、2022年度の開催を決定した。

「これからの医療」としての「臨床医療デザイン学分野」でのスピーチを行なった。

公益財団法人名古屋産業科学研究所 中部 TLO と医療機器研究開発の連携について会議を行った。

11月11日に医療機器等ガイドライン活用セミナー#25 にオンライン参加した。

11月17日に住友電工 LEAD でのオンライン講演会「バイオメディカルデザイン&インダストリー」を行なった。

2022年3月13日、医療ロボット・ダイバーシティ学会にて記念講演「医療ロボットの未来について」を行なった。

3月には下記のように、産業技術総合研究所・人間拡張研究センターとの集

中的な意見交換会を開催した。

3月18日に、産業技術総合研究所・人間拡張研究センター 認知環境コミュニケーション研究チーム長梅村浩之氏とオンラインで、認知環境コミュニケーション研究についての意見交換会を行なった

3月23日に産業技術総合研究所・心身機能・モデル化研究グループ長の木村健太氏とオンラインでストレスの見える化について意見交換会を行なった。

3月24日に産業技術総合研究所・ナノバイオデバイス研究グループ長の栗田僚二氏とオンラインでナノバイオデバイス研究についての意見交換会を行なった。また、医学・ヘルスケアにデザインの手法をいかに取り入れるかという問題をテーマに、ネットワーク利用の、定期的カンファレンスの計画を行なった。

情報デザイン研究部会

主査 横溝 賢

情報デザイン研究部会（以下、Info-D）では、多様な現場で活躍するデザイナーの実践を研究のかたちに整える勉強会を定期的におこなっている。

その活動は次の2つの主題に焦点を当てた活動となる。

1) ナラティブ：現場の実践談をもち寄り、他者と語らうことから自らのデザインの知のはたらきをわかろうとする活動。

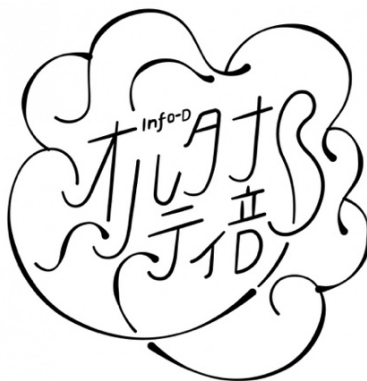
2) オルタナティブ：計画に基づいたデザイン成果の有用性を検証するのではなく、よく定義されていない問題に向きあえるデザイン知の可能性を探索する活動。

上記の2つの主題を背景に、第68回春季研究発表大会（以下、春季大会）の、オーガナイズドセッション（以下、OS）では、美術家・鴻池朋子さんを迎えて「人とひとならざるものに、おもいを馳せていく実践者たちの知～わからない世界とむきあえる身体づくり～」をテーマに、ものづくりを通じて複雑な世界と関わろうとする人間の原初的なデザイン知について議論した。また、同大会のテーマセッションでは、「自

己の実践知をとらえなおす」を企画し、2日間の大会を通じて4セッション、計25件の実践研究が集まった。各セッションの最後にはディスカッションタイムを設け、各発表者との横断的な議論がおこなわれた。

春季大会における部会企画を通じて、「わからない」をわかろうとする対話からデザイン学のもう1つの可能性を探る場づくりの機運が部会内に生まれ、翌7月からデザイン学のもう一つの可能性を探る語らいの場「Info-D オルタナティブ部（毎月第2週／土曜日／20時～）」をはじめた。

このマンスリー小部会は、デザイン実践のなかで見つけた、まだフワッとしていて旬な「問い」や「発見」を部会員がもちよって語りあうことからデザインの知を深掘りする場所である。毎月幹事のもちまわり企画で進め、2021年7月から2022年3月まで9回の部活動をおこなってきた。ここではタイトルのみ紹介する。



Info-D オルタナティブ部活動ロゴ

■7月__vol.1 テーマ

春季大会 OS 「人とひとならざるものにおもいを馳せていくデザイン～美術家・鴻池朋子さんとの対話の振り返り」

●部長：横溝賢（札幌市立大学）、元木環（京都大学）

■8月__vol.2 テーマ

U-30 企画：「まあ知らんけど」って言われても… ～先輩、それじゃあ困ります！～

●部長：海野真梨菜（エスディーテック（株））、木下菜穂（（株）アイスリーデザイン）、三河侑矢（札幌市立大学 大学院デザイン研究科）

■9月__vol.3 テーマ

大人の実践研究のモヤモヤを語りあう

～東海大学 富田誠さんの実践研究の語りを題材にして～

●部長：福田大年（札幌市立大学）

■10月__vol.4 テーマ

「デザイン大喜利@「Design Red Data Book」

●部長：中島郁子（wirefactory/女子美術大学）

■11月__vol.5 テーマ

「MIMIGURI の小田裕和さんと『足元の WHY を問い直すデザイン』について語りあう@秋季企画大会」

●部長：横溝賢、元木環

■12月__vol.6 テーマ

「情報デザインクロニクル共同編集：ソフトデバイスの歴史を題材にして」

●部長：佐々木麻美（softdevice inc.）、野々山正章（softdevice inc./Yumemi inc./法政大学大学院メディア環境設計研究所）

■2022年 1月__vol.7 テーマ

デザインするを読む会「デザインの知恵に迫るデザインのふり回り方の探索」

●部長：瀧知恵美（MIMIGURI）、小早川真依子（千葉工業大学）

■2022年 2月__vol.8 テーマ

「中心無き時代のデザインを読み解く」

●部長：上平崇仁（専修大学）

■2022年 3月__vol.9 テーマ

「情報デザインと環境倫理に橋をかける」

●部長：二宮咲子（関東学院大学）

9回にわたる小部会は実に多様な視点で「デザインとは何か？」について参加者らと議論する場となった。



11月__vol.5のセッション制札用ビジュアル記録

第2号議案**2021年度 収支決算報告****I 貸借対照表（収益事業）****貸借対照表：収益事業**

（令和4年3月31日現在）

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	0	流動負債	0
		固定負債	4,704,278
固定資産	0	法人会計	4,704,278
有形固定資産		負債合計	4,704,278
無形固定資産		（純資産の部）	
投資その他の資産		一般正味財産	-4,704,278
		純資産合計	-4,704,278
資産合計	0	負債・純資産合計	0

II 損益計算書（収益事業）**損益計算書：収益事業**

（自令和3年4月1日 至令和4年3月31日）

単位：円

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
（経常収益）		
事業収益	1,486,953	
企業展示ブース賃貸料	0	
論文集売上 年間購読会員	1,360,500	
電子図書閲覧収入	126,453	1,486,953
（経常費用）		
事業費用	2,217,760	
論文審査料	699,760	
論文 PDF 作成料	1,518,000	
管理費用（収入按分）	529,006	2,746,766
経常利益		-1,259,813

Ⅲ 貸借対照表

貸 借 対 照 表

(令和4年3月31日現在)

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	26,781,278	流動負債	70,000
現金及び預金	26,781,278	未払法人税等	70,000
固定資産	0	固定負債	
有形固定資産		負債合計	70,000
無形固定資産		(純資産の部)	
投資その他の資産		一般正味財産	26,711,278
		純資産合計	26,711,278
資産合計	26,781,278	負債・純資産合計	26,781,278

Ⅳ 損益計算書

損 益 計 算 書

(自令和3年4月1日 至令和4年3月31日)

単位：円

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
(経常収益)		
事業収益	24,495,796	
正会員年会費	15,898,500	
新入会員	1,746,000	
賛助会員	859,895	
年間購読会員	1,360,500	
学生会員	1,092,000	
学会誌掲載負担金	3,200,000	
作品応募料	162,000	
春季大会論文掲載料	0	
雑収入	176,901	
財務収益	196	
受取利息	196	24,495,992

(経常費用)		
事業費用	8,586,271	
オンデマンド印刷	1,385,241	
選挙経費	176,025	
論文審査委員会	699,760	
作品審査委員会	208,235	
論文集	1,518,000	
特集号	862,510	
作品集	784,300	
概要集	73,920	
大会補助費	1,384,776	
オーガナイズドセッション	159,950	
キーノート講演費用	63,411	
国際デザイン会議		
研究部会活動補助費	148,545	
支部活動補助費	359,441	
広報費	9,220	
学術会関連	157,547	
出版物通信費	68,670	
概要集編集委員会	235,270	
特集号編集委員会	77,880	
総会準備経費	0	
学会各賞選考委員会	52,070	
Design シンポジウム補助費	0	
封筒費	71,500	
予備費	90,000	
管理費用	8,976,612	
給料手当	4,620,000	
アルバイト雇用費	486,800	
通信費	506,790	
消耗品費	51,616	
水道光熱費	151,260	
支払手数料	143,434	
賃借料	1,800,000	
保険料	103,953	
租税公課	30,000	
経營業務コンサルタント料	165,000	

通勤費	200,360	
印刷費	145,146	
運営経費	22,110	
会員管理システム利用料	462,000	
雑費	88,143	17,562,883
経常利益		6,933,109
(経常外損益の部)		
経常外収益		
経常外費用		0
税引前当期純利益		6,933,109
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期純利益		6,863,109

V 決算書

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
2020年度繰越金	19,918,169	19,918,169	0	19,918,169
1 会費(現)	16,047,200	16,291,500	244,300	正会員@13,000×1,223名 学生会員@6,500×60名 15,898,500 393,000
2 会費(新)	2,090,000	2,445,000	355,000	正会員@18,000×97名(一般 入会金:5,000、年会費:13,000) 学生会員@6,500×108名(学生 入会金:免除、年会費:6,500) 1,746,000 699,000
3 賛助会員費(現)	780,000	859,895	79,895	26件 859,895
4 賛助会員費(新)	30,000	0	-30,000	0件 0
5 年間購読会員費(現)	1,060,000	1,360,500	300,500	@25,000×54件 1,360,500
6 年間購読会員費(新)	25,000	0	-25,000	0件 0
7 広告費	50,000	0	-50,000	0件 0
8 学会誌掲載別刷料・負担金	2,635,000	3,362,000	727,000	論文掲載料 作品集審査費(3000×54件) 作品集掲載料(40000×29件) 前年度作品集掲載料 2,040,000 162,000 1,160,000 0
10 春季研究発表大会(長岡造形大学)	1,290,000	1,872,003	582,003	参加費 研究発表費 懇親会 補助金(長岡観光コパレション協会) 学会大会補助金(2020年度支出) 預金利息 0 1,272,000 0 100,000 500,000 3
11 秋季企画大会(Open SIG)	0	0	0	参加費 補助金 レセプション参加費 0 0 0
12 雑収入	150,000	177,097	27,097	学会誌売上 NI-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他(コピー代など) 18,000 155,217 3,880
計	44,075,369	46,286,164	2,210,795	寄付 0 46,286,164

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
本部事務局&理事会関係	11,271,780	9,222,637	-2,049,143	
1 本部事務局経費	10,571,780	9,024,502	-1,547,278	消耗品代 運営経費(春季大会出張費用含む) 職員給与(@180,000×12,@230,000×2)+(@150,000×12,@100,000×2) 通勤費(@6,000×12)+(@14,090×4,@6,000×12) 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引落経費 賃貸料(@150,000×12ヶ月) 光熱費 アルバイト雇用費(宛名整理、書類作成、発送、名簿管理補助等) 経営業務コンサルタント料 会員管理システム利用料 オンライン対応経費 租税公課 労災保険料 51,616 0 4,620,000 200,360 0 506,790 145,146 88,143 143,434 1,800,000 151,260 486,800 165,000 462,000 0 100,000 103,953

2	理事会運営費	300,000	22,110	-277,890	会場借用料、理事会運営経費等	22,110
3	選挙経費	400,000	176,025	-223,975	選挙に関する費用	176,025
学会誌審査・編集関係		1,465,000	985,875	-479,125		
4	論文審査委員会経費	700,000	699,760	-240		699,760
5	作品審査委員会経費	275,000	208,235	-66,765	作品集編集費	208,235
6	学会誌編集・出版委員会経費	100,000	0	-100,000		0
7	特集号編集委員会経費	390,000	77,880	-312,120	第29巻1号編集委員会 第29巻2号編集委員会 第30巻1号編集委員会	77,880 0 0
学会誌印刷・通信関係		8,731,000	4,764,141	-3,966,859		
8	印刷費	7,731,000	4,695,471	-3,035,529	論文集 特集号・JStage登録分 特集号 作品集 論文集・作品集オンデマンド印刷費 概要集CD 封筒代 郵送料・事務代行料金	1,518,000 862,510 0 784,300 1,385,241 73,920 71,500 68,670
9	出版物通信費	1,000,000	68,670	-931,330		
大会関係		4,175,000	3,767,480	-407,520		
10	2021年 春季研究発表大会	2,000,000	2,594,635	594,635	コンテンツページ制作他 講演料等 アルバイト 雇用費 会場費・会場設営費 懇親会費 SMOOSY 通信費 会議費 事務費 消耗品費 雑費	100,000 100,000 227,000 28,625 4,800 2,114,200 8,360 11,650 0 0 0 0
11	2021年 秋季企画大会	500,000	29,644	-470,356	Webサイト 制作 ZOOM 講演料等 アルバイト 雇用費 送迎バス チラシ作成費 懇親会費 会議費 消耗品費 通信費 雑費	0 7,370 0 22,274 0 0 0 0 0 0 0
12	2022年度 春季研究発表大会	500,000	632,500	132,500	準備費	632,500
13	春季大会概要集編集(準備金)	550,000	235,270	-314,730	アルバイト 雇用費(2021年度分) 演題登録システム(PASREG) 利用料(2021年度春季分)	49,590 185,680
14	春季オーガナイズドセッション費用	240,000	159,950	-80,050	2件	159,950
15	キーノート 講演費用	60,000	63,411	3,411	2件	63,411
16	学会セミナー費用	100,000	0	-100,000		0
17	総会準備経費	60,000	0	-60,000	総会経費、委任状・資料印刷代	0
18	学会各賞選考委員会経費	100,000	52,070	-47,930	書類作成費(学会各賞推薦状・資料・記念品代等)	52,070
19	国際デザイン会議	65,000	0	-65,000	国際デザイン会議会費(500\$) 国際デザイン会議活動費(運営会議活動費)	0 0
20	Designシンポジウム補助費	0	0	0		0
委員会関係		1,500,000	507,986	-992,014		
21	委員会経費	200,000	0	-200,000		0
22	研究部会共通経費	500,000	148,545	-351,455	共通費(5研究部会)	148,545
23	支部活動補助費	750,000	359,441	-390,559	4支部	359,441
24	市販図書企画・編集経費	50,000	0	-50,000	編集費	0
広報関係		250,000	9,220	-240,780		
25	広報費	250,000	9,220	-240,780	大会ポスター、ちらい通信費 ホームページリニューアル ホームページ管理・運営	0 0 9,220
その他		16,682,589	27,028,825	10,346,236		
26	学協会関連	335,000	157,547	-177,453	学術会議活動費(30,000+30,000) 藝術学関連学会連合シンポジウム分担金 日本工学会活動費 日本工学会会費 CPD協議会会費 日刊工業新聞社 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 デザイン関連学会活動費	0 0 0 27,547 50,000 30,000 50,000 0 0
27	予備費	16,347,589	90,000	-16,257,589	慶弔費 その他	90,000 0
28	繰越金	0	26,781,278	26,781,278		26,781,278
計		44,075,369	46,286,164	2,210,795		46,286,164

[特別会計]

	2020年度	2021年度	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	20,366,028	20,366,916	888	利息(888): 基金に繰り入れ

2021年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

2022年5月26日 一般社団法人日本デザイン学会

本部事務局長 佐藤 隆雄

本部副事務局長 小野 隆雄

本部事務局長 松島 隆雄

本部事務局長 松島 隆雄

監事 佐藤 隆雄

監事 佐藤 隆雄

監事 佐藤 隆雄

第3号議案

2022-2023 年度 役員選任

1 月に 2022・2023 年度の会長候補者・副会長候補者・地区理事（支部長）候補者・全国区理事候補者・監事候補者の郵送による選挙を 2 月 9 日（水曜日）事務局必着で行った。その結果、第 1 回目投票で全ての当選者が確定せず、2 月 12 日の「代議員会（オンライン開催）」出席代議員 64 名程度（時間帯により参加者数が変動）により、第 2 回目以降投票をオンラインで行った。その後、辞退者の申出受付と次点者の繰上を行った。繰上当選については、同票の対象者がいる場合は若年者を優先した。郵送投票の概要と選挙結果について以下の通り報告する。 選挙管理委員長 永盛祐介

郵送投票概要

	会長選	副会長選	地区理事選	全国区理事選	監事選
総投票	89	87	89	420	85
有効投票	89	85	87	420	83
無効票	0	2	2	0	2
（投票率）	0.67	0.66	0.67	0.64	0.64

2022・2023年度 日本デザイン学会 役員候補者選挙 結果

会長候補者	小林 昭世	
-------	-------	--

副会長候補者	佐藤 弘喜	
--------	-------	--

		支部長候補者	副支部長候補者
地区理事候補者	第1地区	福田大年	岡本誠
	第2地区	橋田規子	山本早里
	第3地区	黄ロビン	川島洋一
	第4地区	益岡了	赤井愛
	第5地区	井上貢一	曾我部春香

全国区理事候補者	蘆澤雄亮	井口壽乃
	柿山浩一郎	加藤大香士
	加藤健郎	工藤芳彰
	小泉雅子	佐々牧雄
	佐藤浩一郎	水津功
	寺内文雄	永井由佳里
	永盛祐介	西尾浩一
	細谷多聞	松岡由幸
	村井陽平	森香織
	森田昌嗣	柳澤秀吉

特設理事候補者	小野健太	村上 存
	大島直樹	石川義宗
	井関大介	

監事候補者	佐々木美貴	山中敏正
-------	-------	------

2022 年度活動方針

会長：小林昭世

コロナ禍が続く、3 回目の春を迎える中で、ワクチンの接種を繰り返し、またさまざまな感染予防を定着させることにより、私たちはかつての日常生活を少しずつ取り戻し、また、コミュニケーションや仕事について新たな仕組みや習慣の変化を受け入れつつあるように思います。私たちは、今後、パンデミックの危機への対応ばかりでなく、コロナ禍のもとで再確認された社会的、あるいはコミュニティ的なエンゲージメント、公共的な協力体制を構築するために、メディア、組織、技術を一層洗練させていく課題に直面しています。また一方で、それと共に、コロナ禍のもとで対応が手薄になっていた経済の再構築、焦眉の課題である環境問題などに対して確固たる戦略を作り、そのプロジェクトに参画していくことになりますが、このことは生活世界の形成に責任を持つ専門であるデザインに期待されていることはいままでもありません。日本デザイン学会は、研究基盤を一層整備して、その期待に応えたいと思います。

本学会の 2021 年度を振り返ると、松岡前会長が掲げた (1) 対象領域の拡大 (2) 研究・教育基盤の向上 (3) 他団体との連携強化という当学会の活動目標に対しては、コロナ禍の下にあっても、停滞することなく、研究の基盤となる論文集、英文ジャーナル、作品集を刊行することができました。

また、春季大会と秋季大会は、活動の形を模索しながらも、活動できた、ということが出来ます。春季研究大会は、2 年にわたり大会を準備していただいた境野広志先生を中心とする長岡造形大学の先生方のきめ細かい大会運営のご努力により、遠隔で素晴らしい研究大会を実現することができました。また、秋季企画大会は、企画委員会、研究推進委員会と事務局を中心とする理事の方々と多くの研究部会のご参加により、遠隔の特徴をいかして、たいへん活気のある企画大会になりました。

他団体との連携と交流についても、山中敏正先生が会長となられた IASDR2021 は、12 月に香港理工大学で成功裡に開催されました。本学会からも多数の会員が参加しました。このほかにも、本学会が連携あるいは加盟する学会連合等の活動は着々と行われました。

2022 年度活動に向けては、研究基盤を向上させることが何より重要なことと考えます。

環境課題やコミュニケーション技術を含む社会システムの再構築という焦眉の課題は、刺激的で重要ですが、それらとともに、それ以外の研究課題を等閑視せず、またすぐには役立たないかもしれない基礎研究についてもバランスよく、安定的に研究基盤を提供することが、デザインの研究を多様化し、研究基盤を向上させることにつながると考えます。さらに、変化する社会の中でデザイン実践から提起される多様な問題に対して、学術的に取り組むこともデザイン研究の特色ですから、この点において、デザイン実践、実務領域との連携の強化を図る必要があると考えます。

(1) 学会誌等

学会誌、英文ジャーナル、作品集は、関係の方々のご尽力により、定期的に刊行されています。これらの刊行は、学術活動を深く、広くする基盤です。学会各賞等人材排出の課題とも連動して取り組んでいきます。

(2) 研究大会

春季研究大会は、これまで開催校に委嘱して運営してきましたが、2022 年は、事務局、研究推進委員会、企画委員会、概要集編集委員会の方々を中心とする理事会全体で企画と管理、運営を担当しました。遠隔で起こりそうな様々な事故や不具合を想定し、それらにきめ細かく対応して準備してきました。多くの会員の参加を得て、成果のある春季大会になると確信します。

コロナ禍の下では大会開催校を探すことが難しく、次回 2023 年以降の大会の依頼と従って準備が遅れていますが、早急に 2023 年春季研究大会、2023 年秋季大会、それ以降の大会開催の準備に着手します。

(3) 他団体との連携強化

2016 年に松岡由幸前会長の発案と呼びかけで始まったデザイン関連学会が関連学会を一巡しました。2022 年は、本学会の秋季大会として開催されます。このほかにも、本学会が連携あるいは加盟する日本工学会、学術会議との関連で発足した学会連合や横幹連合、目標を共にする学会間の連帯組織である Design シンポジウム、などの活動、そして、各支部、各研究部会も国内・国外の団体と連携して活動します。

さらにデザイン研究の特殊性を考えれば、デザイン職能団体との連携により、デザイン研究の広がりや多様性を拓いていく方途を考えます。

(4) 本学会運営に関わる課題

理事会を遠隔で開催することに加え、2021 年度より運営委員会は理事全員が参加することになりました。2022 年も理事全員による運営委員会を継続し、また対面で開催する大会時の理事会を除き、遠隔での理事会開催を、当面、継続します。

各委員会については、委員会活動を積極的かつ強力に推進できる若手の方々を中心に委員委嘱をすることになりました。また、各賞選考委員会は、より柔軟に活動できるように、2022 年度中に一部規則の改正を諮問する予定です。

2022 年度 委員会等一覧

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	佐藤弘喜	蘆澤雄亮 加藤健郎 佐藤浩一郎 小野健太*	

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	佐藤浩一郎 (和文誌担当)	加藤大香士 永井由佳里 森田昌嗣	
	柳澤秀吉 (英文誌担当)	井口壽乃 加藤健郎 村上存*	
作品審査委員会	細谷多聞	小泉雅子 水津功 森香織 大島直樹*	
学会誌編集・出版委員会	蘆澤雄亮	村井陽平 森香織	
研究推進委員会	柿山浩一郎	小野健太* 石川義宗*	
企画委員会・総合企画	工藤芳彰	佐々牧雄	
企画委員会・支部企画	橋田規子	福田大年 黄ロビン 益岡了 井上貢一	
教育・資格委員会	松岡由幸	佐藤浩一郎 井関大介*	
広報委員会	西尾浩一	大島直樹*	
財務委員会	小野健太*		
市販図書企画・編集委員会	寺内文雄		
春季研究発表大会概要集編集委員会	永盛祐介	柿山浩一郎 石川義宗*	

支部	支部長	副支部長	幹事
第1支部(北海道・東北地域)	福田大年	岡本誠	
第2支部(関東地域)	橋田規子	山本早里	
第3支部(北陸・中部地域)	黄ロビン	川島洋一	
第4支部(近畿・中国・四国地域)	益岡了	赤井愛	
第5支部(九州・沖縄地域)	井上貢一	曾我部春香	

学会各賞選考委員会	委員長	委員	
	山中敏正		

<協力委員会>論文審査委員会和文誌		佐藤浩一郎	
論文審査委員会英文誌		柳澤秀吉	
作品審査委員会		細谷多聞	
委員会等担当	担当		
Design シンポジウム担当	小野健太＊	加藤健郎 永盛祐介	
デザイン関連学会シンポジウム担当	松岡由幸	加藤健郎 井関大介＊	
IASDR 担当	小野健太＊	加藤健郎	
日本学術会議担当	井口壽乃(第一)	村上存＊(第三)	
日本工学会担当	小野健太＊		
横幹連合担当	蘆澤雄亮		
機械工業デザイン賞審査委員会担当	小林昭世		

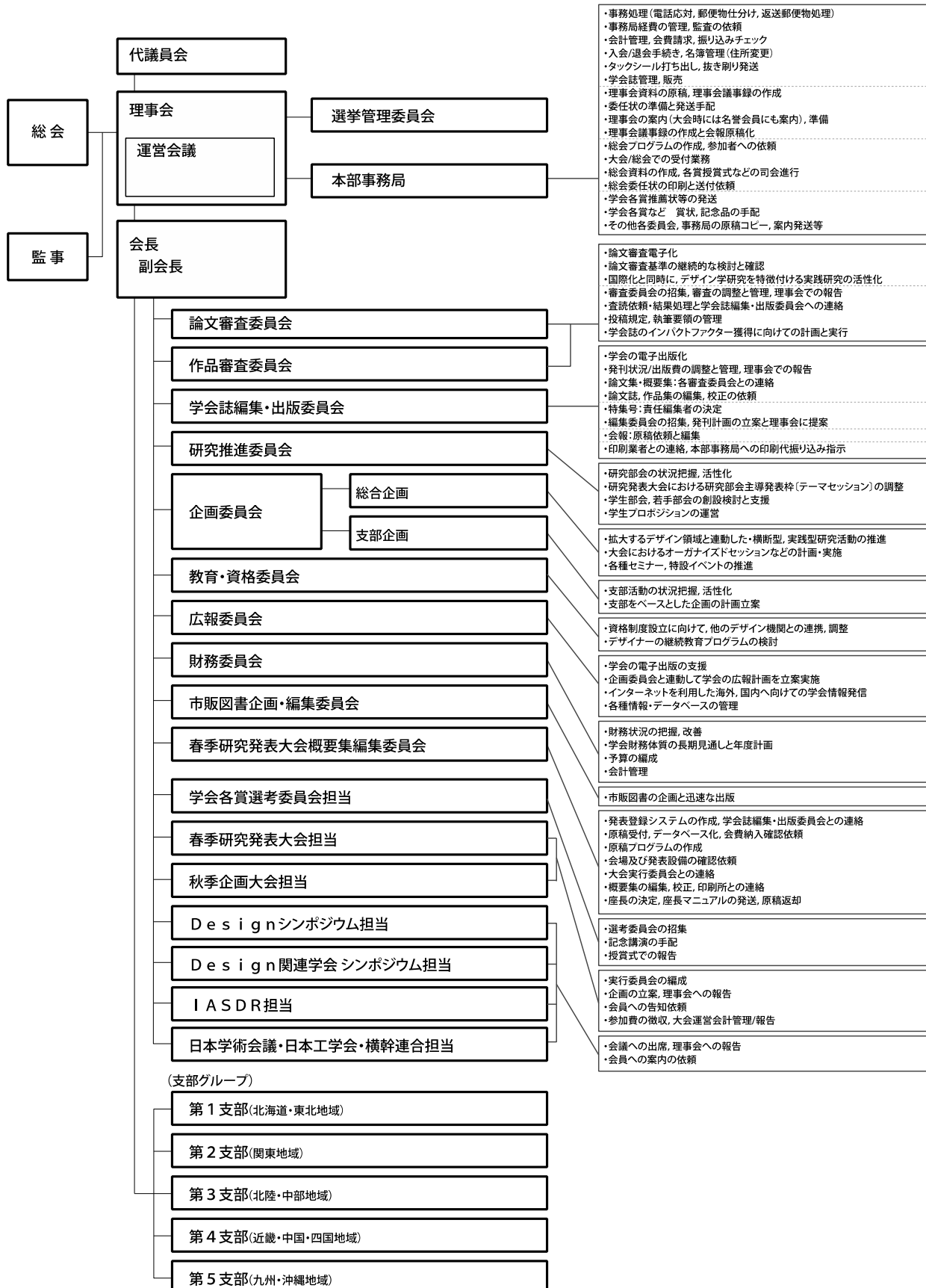
運営会議			
選挙管理委員会 ※2023 年 7 月 31 日まで	委員長	委員	
	永盛祐介	ハイメ・アルバレス 吉澤陽介 横井聖宏 中島瑞季	

監事	佐々木美貴	山中敏正
-----------	-------	------

2022年度 日本デザイン学会組織

平成24年度 デザイン学会組織図および役割

ver.2 2012/04/21



2022 年度事業計画

論文審査委員会

委員長 佐藤 浩一郎

2022 年度は、昨年度に引き続き、デザイン学領域の研究・教育基盤のさらなる向上に向けた活動を推進していく。和文誌『デザイン学研究』については佐藤を中心に採択論文の多様性の拡充、投稿数の増加や審査期間のさらなる短縮を目指していく。英文誌“Journal of Science of Design”については学術水準の確保と国際的認知度の向上に向けて具体的な策を検討していく。また、両誌共通の検討事項として、投稿規定の見直し、論文のデジタル化に適合したフォーマットの検討、および論文種別や査読方法の再考などが挙げられる。

昨年度に引き続き、多くの会員の皆様にご投稿いただけるよう、迅速な対応を推進していく。

作品審査委員会

委員長 細谷 多聞

2022 年度は、新たな委員で「デザイン学研究・作品集」の充実を目指す。募集・審査スケジュールについても例年にならい、8 月 31 日を投稿期限とし、その後の審査は年内を目処に完了させ、2 月の刊行を目指す予定で進める。作品の募集に関する各種告知については従前どおり、広報ならびに日本デザイン学会 Web ページをご確認いただきたい。前委員長からは、近年の審査作品が多様化していることを説明されている。審査委員会としても、専門委員を広く確保し、万全な審査体制で臨む所存である。会員の皆様には時代に合った広い領域からの応募を期待したい。なお、新委員は、大島直樹、小泉雅子、水津功、森香織、細谷多聞の 5 名（＋幹事 2 名）である。

研究推進委員会

委員長 柿山 浩一郎

研究推進委員会の主な活動は、1 研究部会の活性化、2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3 秋季企画大会における企画運営などである。

2022 年度も、これらの活動を推進し、特に春季大会の運営など、より効率的な運営ができるよう体制を検討したい。また、新型コロナの影響により、オンラインでの研究発表が一般化した。今後の研究交流・会員交流の観点も含めた学会としての研究交流のあり方を模索していきたい。

2022 年度担当理事・幹事：小野健太、石川義宗

企画委員会 総合企画

委員長 工藤 芳彰

企画委員会の主たる仕事は、春季・秋季大会に関する企画運営である。学会の魅力向上を第一に、コロナ禍における前委員会の取り組みを基盤として、関係委員会の協力のもと、ポストコロナ時代のあり方を模索していきたい。なお、2022 年度については、第 69 回春季研究発表大会（6 月 24 日（金）～26 日（日）、開催校無しで完全オンライン実施）、および秋季企画大会（10 月 1 日（土）、慶應義塾大学）を予定している。委員は工藤芳彰（拓殖大学）と佐々牧雄（関東学院大学）が務める。

企画委員会 支部企画

委員長 橋田 規子

企画委員会支部企画では昨年度に継続して「教育成果集」の企画を実施する。また、昨年実現できなかった過去 3 回の実施で上がった成果を、学会 HP へ掲載することも行いたいと考える。

実施する中で、出てきた課題や可能性は、支部間で連携を図りながら企画運営を実施する。今年度作品の

応募について、会員の皆様のご協力を賜りたい。

教育・資格委員会

委員長 松岡 由幸

2022 年度は、学会の教育・研究における基盤向上を目的とし、以下の施策を zoom にて実施する。

まず、7 月 6 日、13 日、20 日の全 3 回にわたり、「デザイン科学基礎講座 ～人はなぜ、創造できるのか？」を行う。講師は、松岡由幸（慶應義塾大学/早稲田大学）、宮下朋之（早稲田大学）、加藤健郎（慶應義塾大学）、佐藤浩一郎（千葉大学）、井関大介（東京造形大学）の 5 名による。内容は、デザイン科学の基盤をなす AGE 思考モデル、デザイン二元論、多空間デザインモデルの 3 つの理論を、創造の“体幹”と位置づけ、講義する。

次に、7 月 30 日と 8 月 1 日に、「デザイン科学基礎講座（特別企画）『タイムアクシスデザインの新時代』」を実施する。

いずれも、昨年度に実施した結果、盛況であったことから、今年度も継続する。

広報委員会

委員長 西尾 浩一

本年度の広報委員会は、新型コロナウイルスの情勢回復による学会活動の活発化に対応できるよう引き続き Web サイトの情報更新の迅速化を進め、シームレスな情報配信に努める。

具体的には、支部や研究部会からの情報更新方法（個別 ID を用いたニュース投稿）の周知と配信のサポートを行い情報更新の円滑化を行う。「会員の著書」等の投稿についても活用していただけるよう広報する。加えて、今後の Web ページリニューアルを念頭にサイトのユーザビリティ向上に向けた改善点を検討する。

財務委員会

委員長 小野 健太

デザイン学研究のオンライン化、事務員二人体制、一般社団法人化による大会会計の本部会計への取り込み、コロナ禍による大会のオンライン開催など、近年、学会・大会の体制が大きく変化しており、変動要因が大きいため、学会として適正な財務状況を見極めるのが難しい状況が続いている。引き続き、学会としての適正な財務状況を見極めるのに尽力していきたい。

市販図書企画・編集委員会

委員長 寺内 文雄

本委員会は、統合知としての「デザイン」を支える学会の図書企画・編集への取り組みを進める。主な活動として、デザイン学に寄与するデザイン研究に関する市販図書の出版のために、異なる領域や新しい領域と連携しながら企画を検討する。学会の皆さまや異領域の研究者の方々に、ご協力をお願い申し上げる。

学会各賞選考委員会担当

担当理事 山中 敏正

各賞選考委員会の運営について、各賞受賞に関する規定(平成8年4月18日改正)を遵守しながら、その範囲で、運用について以下の通り、若干の改正をしたい。また将来の運営にとって必要な規定の改正について本年度選考委員会にて検討したい。この委員会を理事会とは独立した組織とする。ただし、規定通り、選考結果は会長に報告し、理事会に諮るものとする。また、選考委員は、規定に従い、年度はじめに理事会に諮ってから委嘱するが、選考結果が出るまでは匿名とし、選考結果の公表とともに選考委員名簿を公表することとしたい。

デザイン関連連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

デザイン関連学会シンポジウムは、日本デザイン学会、意匠学会、芸術工学会、道具学会、基礎デザイン学会(幹事学会順)という日本のデザインに関わる5学会の共催により、毎年、哲学を主なテーマとして実施している。

このシンポジウムは、2016年に実施した日本デザイン学会秋季企画大会において、各学会長が集い、「デザインの哲学 ～豊かさを再考する」をテーマに議論したことがきっかけとなり、スタートした。そしてそれ以降、各学会が幹事となり本シンポジウムが実施され、一巡したことを受け、ここに再度、本学会秋季企画大会とともに実施する。

テーマは、2016年に実施したテーマを継承する。なお、今回は、日本における豊かさと日本独自のデザインの在りようにフォーカスし、再考する。激動するグローバルな社会情勢、変革する科学技術、資本主義下における価値観と産業の在りようなどを背景とし、人々の豊かさを再考する。それにより見えてくるこれからのデザインの在りようについて、日本のデザイン界における知のコンシリエンスが結実することを期待する。

IASDR担当

担当理事 小野 健太

2023年にミラノ工科大学で開催が予定されているIASDR2023に向けて、山中敏正先生がIASDR会長に就任されているこの期に、主力メンバー学会の一つとして、IASDRの活動に貢献していきたい。

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

担当理事 井口 壽乃

日本デザイン学会を含む14学会よりなる芸術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2022年度第16回シンポジウムは「疫病と芸術」をテーマに、2022年6月11日(土)13:00~17:00 早稲田大学戸山キャンパス34号館151教室(ハイフレックス・対面とZoomの併用)にて開催する。シンポジウムでは、疫病が変える社会、芸術は免疫たりえるかについて、思想・歴史・実践の視座から思考する。また本年度の活動として、2023年度のシンポジウムを準備する。

日本工学会

担当理事 小野 健太

本工学会は、約100学協会により構成される工学系学術団体である。本年度も新型コロナの影響により、事務研究委員会は昨年度に引き続きメール、オンラインでの開催となっている。昨年度に引き続き、公開シンポジウム、委員会へ積極的な参加を通じて、研究や運営など有効な情報交換を行いたい。

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事 小林 昭世

2022年度の日刊工業新聞主催、機械工業デザイン賞(IDEA)は、3月より募集を開始し、審査を進行中である。

Design シンポジウム担当

担当理事 小野 健太

昨年度は、精密工学会が幹事学会として9月16日~17日の間、オンラインにてシンポジウムが開催された。次回、2023年は日本建築学会が幹事

学会として開催される予定である。当シンポジウムは当学会からは、小野健太、加藤健郎、永盛祐介の3名が運営委員として参画しており、引き続き、シンポジウム運営に尽力していきたい。

第1支部

支部長 福田 大年

2022年度の日本デザイン学会第1支部は、従来からのコンセプト「地域に開かれた学会活動」を継続し、地域の生活に根ざしたデザイン学の知見を、地元市民、学生、社会人、教員らがフラットに交流する場を、オンラインと対面を横断しながら模索していく。

今年度の第1支部大会は、東北工業大学を幹事校に、「地域の見え方・接し方」をテーマに、対面の比重を高めたハイブリッド形式で10月上旬に開催予定である。詳細は、6月の春季研究発表大会後に学会Webサイトに掲載する。

第2支部

支部長 橋田 規子

企画委員会支部企画の「教育成果集」は、昨年度と同様に編集作業を第2支部で担当する。昨年度の実績を踏まえ、より広く多くの作品を見ていただけるかたちを考えている。作品の応募について、会員の皆様の積極的な協力を賜りたい。

見学会の企画として、コロナ終息後を見据え、「おもてなし～コミュニケーションデザイン」の実践の場の見学等を、引き続き検討し開催する。

第3支部

支部長 黄 ロビン

第3支部では、今年度も会員の活動・研究を相互に知り合い交流を深めるため、会員研究報告集の出版や

研究奨励賞、支部研究発表会・懇親会などを計画している。

1. 第3支部研究報告集

支部会員日頃研究活動やデザイン活動の発表の場として、第3支部報告集を支部研究発表会梗概集と合本して出版している。今年度から出版物の電子化を検討する予定。リニューアルの梗概集+報告集と共に、ISSNの再取得も視野に。

2. 日本デザイン学会奨励賞第3支部次世代研究者を育成するため、第3支部所属各教育機関において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象とした「年間研究奨励賞」を贈呈・表彰する。学部・大学院各2名枠での会員推薦によって、選出する予定。

3. 第3支部研究発表会・懇親会
開催形式は検討中ですが、例年通り第3支部研究発表会・懇親会を開催。活発な論議を交えて盛大な研究成果を期待。なお、学生の演題を対象とする「優秀発表賞」も設けられる。研究発表会の梗概集を電子化して出版する予定。

4. 第3支部の運営とウェブサイト
今年度の幹事会メンバーを大幅に入れ替えて、運営体制を強化。経験継承の観点から、旧メンバーをオブザーバーとして感時間にも参加し、より円滑な運営を狙う。

第3支部その他の活動について、すべての情報を支部ウェブサイト公開している。詳しい情報は「<http://jssd3b.jp/>」ご参照ください。

第4支部

支部長 益岡 了

第4支部では、今年度も継続して学生間の活発な交流の場の創出を目指し、作品発表による学生交流会やポートフォリオ講習会などを予定している。研究発表会や研究会についても、オンライン形式でより広範囲からの参加を募る。対面形式でより深い交流をはかるなど、様々な試みにより会員間の交流の活発化新規会員増を目指す。

第5支部

支部長 井上 貢一

2022(令和4)年度の支部事業としては、10月中旬～11月中旬を目途に「2022年度第5支部発表会」をオンライン形式で実施する予定である。本発表会では、通常の研究発表大会における口頭発表・ポスター発表に準じる「研究発表」と、デザインプロジェクトの報告や教育機関における演習成果の発表等を目的とした「ライトニングトーク」の2つの発表区分を設ける。

過去3年間のWeb(Wiki)を活用した発表会運営のノウハウを活かし、今年度も支部のWebサイトをオンライン上の拠点として、発表エントリー、発表梗概の執筆、当日のプログラムとオンライン会場の運営を行う予定である。

なお、第5支部の発表会では、他の支部の方の発表のみならず、将来本学会に入会の可能性のある方の発表も歓迎し、特にライトニングトークの枠では、会員が指導する学部学生や、高大連携授業に関わる高校生にも門戸を広げている(前年度実績あり)。

6月以降、新たな理事と幹事で協議を行い、実施に向けた準備を進める予定である。詳細が決まり次第、会員の皆様へご案内を差し上げる予定である。多くの方の参加を期待したい。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

すでに2年以上、新型コロナウイルスの問題から異例の状況が続いており、学会の春季大会、秋季大会ともオンラインによる開催が続いてきた。

本稿執筆時点では感染状況も改善傾向にあることから、学会活動の正常化が期待されるが、本年度秋季大会以降の対応については今後の感染状況の推移に合わせて柔軟に対応を考える必要がある。一方でこの数年

間の厳しい状況において対応を行ってきた経験を活かすことで、学会活動、本部事務局業務の効率化を図ることができるものと考えている。

具体的には、この間に進めてきたWeb会議による理事会開催や、事務局業務の効率化のために導入した会員管理システム、オンライン投票による役員選挙などである。これらにより学会運営の効率化と各会員の各種申請などの利便性向上が実現しつつある。

今後の感染状況は予断を許さないが、状況の変化に合わせて各委員会や研究部会、支部活動に対するサポートなどを推進し、学会活動を支援していきたい。事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えた対応を心がけていく所存であり、関係各位のご理解とご協力をお願いしたい。

教育部会

主査 金子 武志

今年度の予定としては、2019年度、2020年度、2021年度に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送っている企画、『蒐集についての一考察 ～モノとの縁、ヒトとの縁～』（発表者：中川 英之、gallery 坂オーナー）について、新型コロナウイルス感染症の状況をみながらあらためて開催を検討したい。また、オンラインによる研究会の実施も視野に入れ、部会関係者からのリクエストや旬な話題に応じたフレキシブルな研究会の計画も検討している。

環境デザイン部会

主査 佐々木 美貴

本年度も「サステナブル環境デザイン～SDGs」をメインテーマとし近年の流れを継続しつつ、世界全体で取り組んでいるSDGsへのED部会員の研究等をフォーラム等で共有し、発信する。テーマを踏まえ、活動としては、部会員が様々に行っている研

究について、大会等を通し理解を深め、事例視察も行う予定とする。また部会機関誌「ED プレイス」は、これまでと同様に年間3回の発行を予定するとともに、創設時から続く本誌の100号に近いこともあり企画を検討する。また、運営委員の次期体制の更新も行う。これら予定は、6月の部会総会で協議して具体的な内容を定めるが、部会員相互の研究の理解と深化を中心に、学会内外の協力を得て本年度も進めていきたいと考えている。

タイポグラフィ部会

主査 伊原 久裕

タイポグラフィ部会では、学会という枠組みを活かしてタイポグラフィ研究の幅を広げつつ、ひとつのテーマを掘り下げる活動を行ってゆきたい。こうした方針から、学会春季大会ではテーマ・セッションの企画というはじめての試みを実施する。また、デザイン領域にこだわらずタイポグラフィと接点を持つ関連研究者との交流を積極的に推進したいと考えている。これらの実績をふまえて、タイポグラフィに関する研究課題・方法・デザインに関する新たな視点の提示を試みるような学会特集号の編集をひとつの目標としたい。

ファッションデザイン部会

主査 神野 由紀

2022年度の活動計画については、対面での研究例会の再開を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、引き続きオンライン開催の可能性も含めて検討する。このほか、「ファッション・デザインとメディアー15年後の再検討(仮題)」というテーマでの特集号の刊行準備を始める(2023年度刊行予定)。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

●総会

2022年度春季大会がオンライン開催となったので、2021年2-3月、部会内メーリングリストによる持ち回り審議形式で、2021年度及び22年度の部会総会を実施した。審議・決定事項は2021年度活動報告に記載した通り。

●春季大会

当部会のテーマセッションを設けず、「家具・木工」枠を設ける。

●秋季大会

家具・木工部会主催の討論会「木工の世界を概観する」を企画する(担当：幹事・石川義宗)。

●特集号

2022年度秋発行予定の『デザイン学研究特集号』(研究部会特集)に、家具・木工部会の紹介記事を掲載する(担当：歴代主査・幹事)。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

コロナ禍の状況を見ながら、対面形式を基本に据えた発表形式の研究会を開催できれば、と考えている。

デザイン科学研究部会

主査 松岡 由幸

本年度は、昨年度に引き続き、デザイン科学の基礎的なタームをテーマとした講習会の実施を教育・資格委員会との共催で企画している。具体的には、7月6日、13日、20日の全3回にわたり、「デザイン科学基礎講座 ～人はなぜ、創造できるのか?」を5名の講師(松岡由幸(慶應義塾大学/早稲田大学)、宮下朋之(早稲田大学)、加藤健郎(慶應義塾大学)、佐藤浩一郎(千葉大学)、井関大介(東京造形大学))で行う予定である。加えて、7月15日に「デザイン塾:”創発”の本質と日本人 ～新たな時代を拓くために」をオンラインで開催する。ここでは、SKY DRIVE社による

「空飛ぶクルマ」、井関大介氏による「感動を生み出す新Mメソッド」、伊豆裕一氏による「つなぐデザイン:表現技法からデザイン思考まで」などのご講演がある。詳細については、学会ホームページ等で改めて告知する予定である。

さらに、6月にオンラインで開催される春季大会ではテーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」が企画されており、多くの方々と活発な議論を期待している。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

2022年度は(1)第69回春季大会において10年目となるテーマセッション「子どものためのデザイン」開催、(2)同春季大会でのオーガナイズドセッション『子どもの問いに応えるデザイン』の企画及び実施、(3)秋季企画大会で好評であったライトニングトークを、当部会の独自企画として実施、の3点を実現したいと考えている。部会サイトは以下のとおりである。研究や部会員の活動に関して積極的に情報共有したく、ご希望の方は主査または幹事までご連絡頂きたい。

(<https://www.facebook.com/design.for.children.jp/>)

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

本年度の活動計画については現在検討中であるが、1)全国大会にてテーマセッションの企画、2)プロダクトデザイン研究部会の開催、3)関連団体(人間中心設計機構、Xデザインフォーラム等)とのイベントの開催、4)プロダクトデザイン研究に関連する情報発信(日本デザイン学会 Web サイトとプロダクトデザイン研究部会 Facebook 等)などの活動を計画していく予定である。また、今後の検討として研究領域(例えば、エクスペリエンス等)の検討なども、検討してい

きたいと考えている。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 柳澤 秀吉

本年度は、昨年度に引き続き、春季大会におけるテーマセッションと講習会を実施していくとともに、部会内で議論する場を設定し、タイムアクシスデザイン領域における研究の推進を図っていく。

具体的には、6月にオンラインで開催される春季大会にて、テーマセッション「タイムアクシスデザイン」、7月30日と8月1日に、「デザイン科学基礎講座(特別企画)『タイムアクシスデザインの新時代』」を企画している。これらの実施を通して、多くの方々と活発な議論を展開できることを期待している。

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査 國本 桂史

バイオ・メディカルデザイン研究部会は、医療・ヘルスケア分野のデザインはそれが医療機器デザインや、人工関節などの人体再建の構造デザインであるを問わず、医学ヘルスケア分野とそれが医学とデザインとの境界領域にあるために、両者の緊密な連繋が必要なのは勿論であるが、デザイン側においても、医学と工学の協力を得なければ十分な成果を挙げることはできない。また生体工学的概念を具体的に進展させるためにデザインの手法を必要とする考えで2008年6月に設立された。

当研究部会はメディカルデザインという観点から医学領域における患者に優しい医療機器の研究開発のプラットフォーム創造を目指している。今後も、医療従事者、医師、研究者とのシームレスな連携を目指して、異部門との共同研究を視野に入れ、医学環境で価値のある医療・ヘルスケア機器の研究開発を目指す。

情報デザイン研究部会

主査 横溝 賢

情報デザイン研究部会は2001年に発足した。それから10年が経ち、本年度は次の10年の向けた1年目となる。まずは先に進む前に、これまでの10年を振り返り、情報デザインの地図がどう変化したのかを描き出すワークショップを今夏、札幌にて実施したい。詳しい情報は、6月の春季研究発表大会後に学会HPに掲載する。●Info-Dの詳しい活動紹介はこちら→



●入会のお問い合わせ先:

小早川真衣子(千葉工業大学 先進工学部) Mail:

kobayakawa.maiko*p.chibakoudai.jp (*を@に置き換えてください)

2022 年度 予算

[一般会計]

■ 収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
2021年度繰越金	26,781,278		26,781,278
1 会費(現)	16,073,200	正会員@13,000×1,424名×0.8(徴収率)	14,809,600
		学生会員@6,500×243名×0.8(徴収率)	1,263,600
2 会費(新)	2,090,000	正会員@18,000×80名(一般 入会金: 5,000, 年会費: 13,000)	1,440,000
		学生会員@6,500×100名(入会金: 免除, 年会費: 6,500)	650,000
3 賛助会員費(現)	780,000	26件	780,000
4 賛助会員費(新)	30,000	@30,000×1件	30,000
5 年間購読会員費(現)	1,050,000	@25,000×42件	1,050,000
6 年間購読会員費(新)	25,000	@25,000×1件	25,000
7 広告費	50,000	@50,000×1件	50,000
8 学会誌掲載料	2,890,000	論文掲載料((@40,000×8報)×6冊)	1,920,000
		作品集審査費(@3000×30件)	90,000
		作品集掲載費(@40,000×20報)	800,000
		2021年度作品集掲載費(@40,000×2件)	80,000
9 春期研究発表大会	1,320,000	@6,000×220人	1,320,000
10 秋季企画大会(慶應大学)	500,000		500,000
11 雑収入	150,000	学会誌売上	50,000
		NII-ELS還元金、補助金、預金利息等	100,000
		その他	0
		寄付	0
計	51,739,478		51,739,478

2022予算(繰越金なし)

24,958,200

■ 支出の部

項目	予算額	予算額内訳	
本部事務局 & 理事会関係	11,070,360		
1 本部事務局経費	10,820,360	消耗品代	200,000
		運営経費(春季, 秋季大会出張費用含む)	100,000
		職員給与(@180,000×12,@230,000×2) +(@150,000×12, @100,000×2)	4,620,000
		通勤費(@6,000×12) +(@14,090×4, @6,000×12)	200,360
		施設設備費	300,000
		通信費及び電話代金	700,000
		印刷代	200,000
		雑費	200,000
		会費引き落とし 経費	200,000
		賃貸料(@150,000×12ヶ月)	1,800,000
		光熱費	180,000
		アルバイト 雇用費および時間外手当	800,000
		経理業務コンサルタント 料	200,000
		会員管理システム利用料	600,000
		オンライン対応経費	300,000
		租税公課	100,000
		法人税、住民税及び事業税	0
		労災保険料	120,000
2 理事会運営費	250,000	会場借用料、理事会運営経費等	250,000
3 選挙経費	0	選挙に関する費用	0
学会誌審査・編集関係	1,490,000		
4 論文審査委員会経費	700,000		700,000
5 作品審査委員会経費	300,000		300,000
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000		100,000
7 特集号編集委員会経費	390,000	第29巻2号編集委員会	130,000
		第30巻1号編集委員会	130,000
		第30巻2号編集委員会	130,000
学会誌印刷・通信関係	13,131,000		
8 印刷費	12,131,000	2021年度論文集(0冊)	0
		2021年度特集号(2冊)	4,000,000
		2021年度作品集(0冊)	0
		論文集(@23,000×10報) ×6冊	1,380,000
		特集号(@2,000,000×2冊)	4,000,000
		作品集(@23,000×30報)	690,000
		論文集・作品集のオンディマンド印刷費(@1000×6冊+@3700×1冊) ×130件	1,261,000
		概要集CD	100,000
		封筒代	700,000
9 出版物通信費	1,000,000	郵送料・事務代行料金	1,000,000

大会関係		3,880,000	
10	2022年度春期研究発表大会	2,000,000	2,000,000
11	2022年度秋季企画大会	500,000	500,000
12	2023年度春期研究発表大会(準備金)	500,000	500,000
13	春季大会概要集編集委員会経費	350,000	活動費 演題登録システム(PASREG)利用料, データ変換料 50,000 300,000
14	春季オーガナイズドセッション費用	240,000	@80,000×3件 240,000
15	春季キーノート講演費用	90,000	@30,000×3件 90,000
16	学会セミナー費用	100,000	100,000
17	総会準備経費	0	総会経費、委任状・資料印刷代 0
18	学会各賞選考委員会経費	100,000	資料作成費・記念品代 100,000
19	国際デザイン会議	0	国際デザイン会議会費(500\$) 国際デザイン会議活動費 0 0
20	Designシンポジウム補助費	0	0
委員会関係		1,500,000	
21	委員会経費	200,000	共通費 200,000
22	研究部会共通経費	500,000	共通費(現行19研究部会) 500,000
23	支部活動補助費	750,000	@150,000×5支部分 750,000
24	市販図書企画・編集経費	50,000	編集費 50,000
広報関係		150,000	
25	広報費	150,000	大会ポスター・通信費,パンフレット作成費 ホームページ管理・運営 100,000 50,000
その他		20,518,118	
26	学協会関連	335,000	学術会議活動費(@30,000+@30,000) 芸術学関連学会連合シンポジウム分担金 日本工学会活動費 日本工学会会費 CPD協議会会費 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 日刊工業新聞社 デザイン関連学会活動費 60,000 15,000 10,000 40,000 50,000 70,000 30,000 30,000 30,000
27	予備費	20,183,118	20,183,118
計		51,739,478	51,739,478

学会各賞贈呈

功労賞：蓮見孝氏 須永剛司氏

年間論文賞：前川正実

使用過程に基づく不便益の性質把握と分類(vol. 67, no. 3, pp9-18, 2020)

年間作品賞 1：富本浩一郎、平井康之、日高真吾

国立民族学博物館触知案内板のデザイン開発 (A 類) (vol. 26, no. 1, pp100-105, 2020)

年間作品賞 2：上綱久美子、山田弘和、辻康介、田崎冬樹、稲津あや子、山内奏、石井千春、牛頭久美

横浜美術大学のキャンパスサインデザイン (A 類) (vol. 26, no. 1, pp84-89, 2020)

名誉会員証贈呈

116 号	國澤 好衛 氏
117 号	五十嵐浩也 氏
118 号	尾登 誠一 氏
119 号	伊豆 裕一 氏
120 号	高野 修治 氏